

## 雪まつりの雪を活かす 「雪むろ」の開封が行われました

7月7日、JR只見駅前広場に設置されていた雪むろの開封が行われました。

この雪むろは、克雪対策として只見ふるさとの雪まつりの雪像等に使用された雪を再利用し作成されているもので、お酒や味噌、お米など地元産品が貯蔵されます。低温・高湿度で保存ができ冷蔵庫保存よりも新鮮な状態を長く保てるだけでなく、雪中で熟成が進むことで、美味しさが増すとされています。

雪むろから出された品物は、雪中貯蔵ブランドとして限定ラベルが貼られ、イベント等や町内の小売店などで販売される予定です。



▲雪むろに貯蔵されていた産品

## 只見線キハ、ありがとう キハ40系ラストラン

7月11日、只見線(小出駅から只見駅間)を走るキハ40系のラストランとなりました。

当日は、最後の思い出に乗車する方も多く、只見駅のホームにもたくさんの方が訪れていました。また、沿線地域の方々は、キハ40系が通過する度に手を振り見送りをしていました。

只見駅からの最終便が出発する前には、只見線を応援する多くの有志の方が集まり記念撮影がおこなわれ、最終便が出発すると「ありがとう!」と感謝の言葉と共に手を振り続けていました。



▲ラストランを見送りに集まった方々

## なんでもチャレンジ隊開講 「古代生活を体験しよう!」

7月11日、会津只見考古館で、只見小学校4～6年生児童18名から組織する「なんでもチャレンジ隊」の開講式が行われました。(当日の参加者は児童12名)

開講式後は、講座「古代生活を体験しよう!」が行われました。児童は、思い思いの勾玉づくりを体験したり、古来の方法による火おこし体験をしたりしました。また講座の中では、現在建設中の「民具収蔵展示施設」について、実際の工事現場を見ながら説明を聞く場面もありました。

次回の講座は、8月2日に開催の予定です。



▲火おこし体験をする児童

## 雄大な自然と文化を学ぶ 明和小学校「明和発見タイム」

7月3日、明和小学校で校外学習授業「明和発見タイム」が行われ、1、2年生は恵みの森、3、4年生は癒しの森の散策をしました。この授業は、地域の美しい自然や文化に触れることによって、より多くの体験と見分を広めることを目的に実施されています。

恵みの森を訪れた1、2年生は、ガイドの方から樹木や草花を教わりながら歩き、澄んだ川の冷たさを感じました。癒しの森を訪れた3、4年生は、ブナの大木をみんなで囲いながら大きさを確かめたり、木に耳をあてて木の内部の音を聞いたりし、大自然を体中で感じました。



▲ガイドの話を熱心に聞く児童たち



▲模型で土砂災害の恐ろしさを確認

## 自分の身を守る方法を学ぶ 只見小学校防災教育出前講座

7月14日、只見小学校で福島県南会津建設事務所の方を講師に、大雨による災害から身を守る方法について講座が行われ、土砂災害の前触れや、大雨の際の行動について学びました。

講座のなかでは、模型を使いながら、土砂災害についての恐ろしさや、また砂防の重要性についてなどをシミュレーションしました。

児童は「今回の講座を通して、災害の怖さや、いざという時の行動を改めて確認しました。万が一の時は、声を掛け合って協力しながら避難できるように、心がけるようにします。」と感想を話してくれました。

## 自然と遊ぶ 朝日小学校「かわあそび・イワナつかみ体験」

7月27日、朝日小学校の全校児童が黒谷川で「かわあそび・イワナつかみ体験」をしました。

朝日地区地域づくり委員の方をゲストティーチャーに招き、川遊びでは、箱眼鏡で水中観察をしたり、川の流に身を任せ泳いだりして、思い思いの方法で川遊びを楽しんでいました。イワナつかみ体験では、逃げるイワナをみんなで端へ追い込んだりしながら捕まえていました。最後には、イワナの塩焼きをみんなで食べました。

児童は、「川の水がひんやりして気持ちよかった。」「ヌルッとしていたけど、捕まえられて良かった。」と今日の体験を楽しんでいた様子でした。



▲イワナつかみを楽しむ児童たち